

トコブシ養殖指導VI

石川貴宣・與那嶺盛次

1. 目的

トコブシは、ミミガイ科の巻貝でアワビと同じ仲間である。味はアワビに似て美味で、商品価値が高い。当普及センターでは、種苗生産から養殖までの一貫した技術指導を行いトコブシ養殖の定着を目指している。ここでは昨年度に引き続いて実施した平成18年度の養殖指導について報告する。

2. 指導結果及び考察

(1) 浦添宜野湾漁協

ネトロンネットを使用した小割式の籠によりトコブシの養殖を行ってきたが、ホヤや海藻の付着が多く清掃作業が負担になっている。清掃作業負担軽減を目指しモジ網を使用した小割式籠を作成。従来のネトロンネットを使用した籠との生育比較を行った。

平成16年7月に糸満市とうるま市（旧具志川市）の生産者より購入したトコブシ種苗（平均殻長22～23mm）5千個を用いモジ網を使用した小割式籠（改良籠）とネトロンネットを使用した小割籠（従来式の籠）を使用した試験区をそれぞれ2区設定し生育比較試験を平成16年度より継続して行った。平成18年4月19日に平均殻長・生残率の計測を行った。

平成18年度4月19日計測結果

改良籠：平均殻長40.5mm 生残率18.75%

従来籠：平均殻長33.6mm 生残率34%

となった。

両試験区とも種苗購入より2年近く経過するが平均殻長が40mm程度と小さく。生残率も悪い。清掃等の作業の簡略化のためモジ網を使用した小割式籠を作成し生育試験を行ってきたが、モジ網の目合いが10mmと大きいこと、

定期的な清掃の徹底がなされていないため、カニや魚が籠内に多くトコブシに十分な餌料の摂餌が妨げられ以上のような結果となった。今回の計測で試験を終了することになった。

(2) 伊江村漁協

観光連携型養殖場整備事業で陸上養殖棟及び種苗生産棟を整備した。平成18年11月に採卵した稚貝を約10万個波板から取り上げた。また、約10万個の種苗（殻長約10～30mm）を中間育成している。なお、伊是名村漁協から種苗（殻長20mm）を2万個購入した。

養殖棟での成貝養成は、夏場の斃死もなく順調で約15万個養成していた。平成18年4月～平成19年3月までの販売金額は約360万円です島内外に出荷を行っている。今後販売量を拡大する必要がある。

(3) 伊是名村漁協

観光連携型養殖場整備事業で陸上養殖棟及び種苗生産棟を整備した。平成18年度は、養殖棟での成貝養成が経費がかかりすぎることから種苗生産棟（5 t 水槽44面）で成貝養成も実施した。

平成18年10月、成貝は養殖棟から種苗生産棟に全て移送した。成貝と種苗あわせて約10万個養成していた。伊江漁協へ種苗（殻長20mm）を2万個販売した。その後、種苗生産棟で養成した成貝と種苗を全て島内外に出荷を行って、平成19年3月までにトコブシ養殖を取り止めた。



モジ網を使用した小割籠



ネトロンレットを使用した小割籠



トコブシ養殖施設(伊江漁協)



トコブシ成貝養殖棟内部(伊江漁協)



トコブシ成貝養殖棟(伊是名村漁協)



トコブシ種苗生産棟内部(伊是名村漁協)